

No.とプログラム名	<b>No.60 「食べる」から世界を変えよう！</b>
実施日・回数	8月6日（火）午前、8月7日（○）午前・午後 計3回実施
会場	【西区】横浜国際協力センター GALERIO
参加児童数	37人
企業・団体等名	横浜市国際局グローバルネットワーク推進課
参加の目的 (150文字程度)	前半は、世界の11人に1人が飢餓状態にあることや、世界の栄養状況の改善のために活動する国際機関（国連WFP）の役割について、 後半は、先進国のフードロスの現状や改善策について学ぶことで、世界の食糧問題に対して自分たちができることを考え、実践してもらう。

## ■ プログラム内容

まず、IFADユースクラブによるアイスブレイクで、自己紹介と食に関するクイズに取り組みました。

そして、前半の国連WFPの講演では、世界の飢餓やWFPの支援活動についてクイズ等も交えながら学び、講演を聞いた率直な感想についてグループで話し合い、発表をしました。

後半の資源循環局の講演では、先進国のフードロスの現状や改善策についてクイズやグループワークを交えて学び、最後に、自分たちが今日からできることについて話し合い、発表をしました。

## ■ 当日の流れ

- ・ アイスブレイク (IFADユースクラブ)
- ・ 講演① (国連WFP)
- ・ グループワーク①
- ・ 講演② (資源循環局 3R推進課)
- ・ グループワーク②



真剣な眼差しで講演を聞いている様子



問いかけに、子どもたちが積極的に答えている様子

## ■ 参加児童の様子や意見、感想など

最初は緊張気味だった児童の皆さんですが、アイスブレイクや講演中のクイズ、グループワークを重ねるうちに、みるみる笑顔が溢れ、積極的に質問をしたり、自分の意見を発表する様子も見られるなど、とてもにぎやかな雰囲気でした。

そして、世界の飢餓やフードロス問題について、「人から言われてからではなく、自分の頭で考えていきたい」といった頼もしい感想もいただきました。

以下は、児童の皆さんのご意見・感想の一部です。

- 世界で起きている問題を身近に感じられるようになったので、もっと世界に目を向けていきたい。
- 学校で、友達に今日聞いたことを教えてあげたいと思った。
- 小さなことを自分たちが行っていれば、いつか世界の人たちを助けることができると思った。家でもできることは実践したい。



フードロス削減メニューを発表している様子

## ■ 企業・団体の気付きや感想など

真剣な表情で講演に参加したり、笑顔で楽しそうにグループワークをしている子どもたちの姿から、私たち大人が活力をいただきました。

今後も、世界の様々な課題をこのようなイベントを通じて発信し、子どもたちに“自分事”として考え、行動してもらえよう取り組んでいきたいと思えます。

### (横浜市国際局グローバルネットワーク推進課)

世界の飢餓問題について学び、自分にできることを一生懸命考えて発表する姿がとても頼もしく、励みになりました。

今後も世界でどんなことが起きているのか伝え、子どもたちの学びの一助になれば幸いです。

### (国連WFP)

子どもたちが、楽しく積極的に参加してくれたので、講義をしているこちら側も、楽しく行うことができました。

自分たちの日常生活と世界で起きていることが、どう関係しているのかを考えていただける良い機会となりました。

### (横浜市資源循環局3R推進課)



課題解決に向けて今日からできることを発表している様子



大人も一緒に、グループで話し合う様子